



こうべ動物共生センターでの「わんちゃん読書会 (R.E.A.D.プログラム)」の様子

希望する自治体とともに教育ツールの制作も行っています



動物関連団体による活動事例紹介①

# 笑顔と楽しさのあふれる「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に貢献

— 公益社団法人 Knots (ノッツ) —

## 阪神・淡路大震災譲渡動物の調査参加から団体設立へ

神戸に拠点を置き、人と動物の共生およびSDGsを推進し、人も含めたすべての動物が、より大きな喜びを感じながら幸せに暮らせる社会の実現を目指し、さまざまな事業を展開する公益社団法人 Knots (ノッツ) は、阪神・淡路大震災の動物救援事業をきっかけに始まった団体です。

1995 (平成7) 年に発生した阪神・淡路大震災では、多くの方々がボランティアとして尽力されましたが、そのようななかで、兵庫県愛玩動物飼養管理士会も組織されています。

阪神・淡路大震災では、およそ9300頭の犬猫が被災したと推定され、1545頭が保護・譲渡されました。その大半が成犬・成猫だったことから、社団法人日本愛玩動物協会 (当時) は成犬・成猫譲渡のその後の飼育状況を確認するために、1年後の1996 (平成8) 年に「譲渡動物の行動と里親の対応調査」を訪問面接方式で実施。その際、調査員には適正飼養・管理に関する相応の知識が求められるため、阪神地区に在住する42名の愛玩動物飼養管理士がボランティアで調査にあたりました。

公益社団法人 Knots の代表理事を務める富永佳与子さんも、その調査に参加した愛玩動物飼養管理士の一人でした。



表1 公益社団法人Knotsの歩み

1995（平成7）年	阪神・淡路大震災発災
1996（平成8）年	被災動物救援事業1年後に行われた譲渡動物のその後の調査に参加
2000（平成12）年	NPO法人Knots設立/JTB「ペットと行く旅行」調査・提案・監修
2001（平成13）年～	りぶ・らぶ・あにまらず国際シンポジウム開催
2002（平成14）年～	りぶ・らぶ・あにまらずフェスティバル開催
2003（平成15）年	障害者自立支援事業開始
2004（平成16） ～2020（令和2）年	六甲山カントリーハウス・ドッグランの事業運営受託
2004（平成16）年～	野生動物有効活用推進事業開始
2009（平成21）年	第1回神戸アニマルケア国際会議2009開催
2010（平成22）年	一般社団法人Knots設立/内閣府より公益認定を受け、公益社団法人Knotsとなる
2011（平成23）年	「ずっと一緒に居ようよ」プロジェクト始動
2012（平成24）年～	奈良県と「いのちの教育展開事業」に関する連携協定締結
2012（平成24）年	第2回神戸アニマルケア国際会議2012開催
2014（平成26）年	第3回神戸アニマルケア国際会議2014開催
2015（平成27）年	第4回神戸全ての生き物のケアを考える国際会議2015開催
2016（平成28）年	教育ツール共有事業開始
2017（平成29）年～	「神戸市人と猫との共生推進協議会」監事団体
2019（令和元） ～2020（令和2）年	神戸市動物愛護フェスティバル開催
2021（令和3）年	紺綬褒章公益団体認定/公益認定事業にSDGs推進事業「One World, One Life」を追加/ 多可町SDGs普及展開事業受託
2021（令和3）年～	こうべ動物共生センター管理運営業務受託/兵庫県多可町と包括連携協定締結
2022（令和4）年	多可町が内閣府「SDGs未来都市2022」に選定される

「訪問調査で直接飼い主さんからいろいろなお話を伺い、改めてペットがいかに大切な存在かという認識をもつことができたと同時に、もっと啓発するべき情報や課題があることも見えてきました」

訪問調査に参加した愛玩動物飼養管理士たちを中心に「人と動物の共生の実現」に向けた啓発活動を開始したことが、今日の公益社団法人Knotsの出発点となりました。

### 任意団体での 事業実施の限界を知る

兵庫県愛玩動物飼養管理士会では、ペットの適正飼養と動物愛護精神の啓発、適正飼養に関する相談や情報提供などのさまざまな活動を行いましたが、大きな活動のひとつに「ワンワンフェスティバル」（1997～1999年）というイベント開催があります。

「愛犬と一緒に出かけた」という飼い主のニーズを満たし、犬連れで入ることができる場所を増やすことを目的に開催した飼い主参加型のイベントで、ペット関連だけでなく、コンビニエンスストアや外食業、インテリア、観光などさまざまな業種も参加。犬のいる暮らしの楽しさを伝えながら適正飼養を啓発するイベントは、当時としてはまだ珍しかったこともあって好評で、ペットフードメーカーから協賛金の提供もありました。

その一方で、イベントや管理士会の活動が評価され、とある財団法人からの助成金を受給できることになったとき、ひとつの障壁が立ちました。任意団体は法人格がないため、代表者個人の印鑑証明では助成金受給の手続きができませんでした。このときは兵庫県愛玩動物飼養管理士会の本部にあたる日本愛玩動物協会に相談して、理事長印で申請し、助成を受けることができました。

徐々にイベントの規模も大きくなり、任意団体、つまりボランティア個人で責任を負うにはリスクも大きくなってきたことから、富永さんたちは法人格の必要性を感じたといいます。

### NPO法の施行を受け 新たな法人「Knots」を設立

当時は「ボランティア元年」と呼ばれた1995（平成7）年から数年が経ち、多くのボランティア団体が似たような問題に直面していました。そのため1998（平成10）年に特定非営利活動促進法（NPO法）が施行されました。

兵庫県愛玩動物飼養管理士会でも、このタイミングでNPO法人化を検討したそうです。しかし、「兵庫県愛玩動物飼養管理士会」として法人化することはできず、さらに任意団体としての管理士会も存続することになったため、2000（平成12）年5月に、管理士会の有志を



「教育・啓発・研究関連事業」として、2012年より奈良県「いのちの教育展開事業」連携協定事業にも取り組んでいます

中心に新たな団体としてNPO法人「Knots」が設立されました。

団体名の「Knots」とは、英語で「結び目」という意味です。その名の示す通り、市民、企業、団体、行政、学校、研究機関などとさまざまな連携（「Knots」を創り、ペット（伴侶動物）、産業動物、野生動物という区分を越えた「人と動物の共生」をテーマにした取り組みは、今も揺るがず、継続して行われています。

「りぶ・らぶ・あにまるず」を啓発事業の総称とし、フェスティバルやシンポジウムなどのイベントや、国際会議も開催。また、当時はまだ広く普及していなかった「ペットと行く旅行」を旅行会社に企画提案し、それが商品化されて監修を行うなど、他分野・多方面を結びつけながら、さまざまな事業を進展させていきました。

その事業の根底には、飼い主の立場から『こんなものがあったらいいな』『○○だったらいいな』という発想があります。その実現のために企画書をつくり、事業計画をしっかりと立てて

積極的に企業などに提案してきました。

### 内閣府認定の公益社団法人へ行政からの受託事業も本格化

2006（平成18）年に公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（認定法）が制定され、2008（平成20）年に新公益法人制度が始まりました。公益法人になると税制上の優遇措置を受けられることや、新たな事業への参画の機会なども見据え、Knotsも公益社団法人化を目指すことになったそうです。

ただし、NPO法人と公益法人では準拠する法律が異なり、そのまま移行することができませんでした。NPO法人を清算して、一般社団法人を設立した後、国の公益認定を受け、膨大な事務手続きを経て、2010（平成22）年11月に、公益社団法人Knots（内閣府認定）が誕生しました。

「Knotsは小さな団体なので、事業を受けるにしてもとにかく信用度が大事。国（内閣府）から公益認定をいただきたい」とは、団体の規模は小さくてもきちんと事業をしているという保証にもなりません」と富永さんは話します。

現在、公益社団法人Knotsは正会員23名+事務局5名と、確かに人数をみると決して大きな団体ではありません。しかし、NPO法人時代から継続している事業のほかに、公益社団法人になってから

は、奈良県との連携協定で「奈良県いのちの教育展開事業」（2012年〜）や、兵庫県多可町と包括連携協定締結（2021年〜）、こうべ動物共生センター（P27）の管理運営受託（2021年〜）など、行政からの公共事業の受託も行っています。

これは、これまでの事業の成果が認められた、信用の証と言えるのではないのでしょうか。

### 寄付だけに頼ることなくさまざまな資金確保を目指す

事業を継続するための収入源や資金調達をどのようにして確保するかは、どの団体にとっても切実な課題です。

「ボランティアからスタートしましたが、Knotsの方針としては最初から、事業経費を自腹で負担するような運営はしない、というルールを決めていました」と話す富永さん。そのため、Knotsでは企業に企画を提案したり、コンサルティングを請け負ったり、安心・安全な犬用おやつを開発・販売するなど、さまざまな事業を展開してきています。

2000年代は企業のCSR活動（企業の社会的責任・社会貢献）の一環として、企業が団体に寄付をして支援するケースが多く見られましたが、近年ではCSV（共通価値の創造）に注目が集まっています。つまり、CSVは、その

表2 Knotsの主な事業内容

#### SDGs 関連事業

- SDGs 推進事業 — One World, One Life —
- 障害者自立支援事業

#### 教育・啓発・研究関連事業

- 奈良県「いのちの教育展開事業」連携協定事業
- 教育ツール共有事業
- りぶ・らぶ・あにまるずシンポジウム
- ICAC KOBE（神戸全ての生き物のケアを考える国際会議）
- コンサルティング事業
- 情報提供事業

#### 人と動物の共生関連事業

- りぶ・らぶ・あにまるずフェスティバル
- ドッグラン事業
- ずっと一緒に居ようプロジェクト
- 野生動物有効活用推進事業



※ 詳細については、Knotsのウェブサイトをご覧ください。

### 阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来へ

公益社団法人Knotsでは現在、公益認定事業として「SDGs 関連事業」「教育・啓発・研究関連事業」「人と動物の

企業の本業＝事業そのものの貢献で新たな社会価値を生み出すということであり、これまでのような企業からの大きな寄付での支援が受けにくい状況に変わりがつあるということです。そのためKnotsでも公益法人税制を活用して賛助会員や一般寄付からの支援を募りつつ、公益事業収益により事業資金を確保するなど、運営費の調達方法も変わってきていると富永さんは話します。



## こうべ動物共生センター

こうべ動物共生センターは、「犬猫の譲渡（いのちをつなぐ）」「動物とのふれあい（いのちにふれる）」「動物との付き合い方（いのちを学ぶ）」を主要なテーマとし、神戸市の新しい動物愛護拠点として、2021（令和3）年に、公的機関で初めて「共生」と名づけて開設された施設です。神戸市北区にある「しあわせの村」という、すべての人が健康で文化的な活動に参加できるように整備されたSDGs視点をもった総合福祉施設の中に設置されました。

運営は、公益社団法人神戸市獣医師会と公益社団法人Knotsに委託されています。獣医師会は犬猫の飼養管理と犬猫の譲渡を、Knotsは啓発・教育事業を担っています。

アニマルセラピー動物ふれあい事業では、子どもが犬に本の読み聞かせを行う「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」が行われ、大学などの専門機関の協力のもと、「人と動物の相互作用」の影響について調査研究も併せて行われています。ほかに、子どもたちを対象にした動物共生教育として、犬との接し方を学ぶ「犬ともだちになろう」などさまざまな事業が実施されています。

譲渡動物を屋外からも見学できるプレイルームでは、センター長猫のラビが執務しており、来場された方々のおもてなしをしているほか、センターの日常をInstagramで発信しています。

「皆さん、ぜひこうべ動物共生センターに遊びにきてニャ！」



こうべ動物共生センターの運営は、公益社団法人神戸市獣医師会と公益社団法人Knotsによって行われています



子ども向けプログラム「犬ともだちになろう」

※事業の詳細については、こうべ動物共生センターのウェブサイトをご覧ください。



ウェブサイト



2021年には兵庫県多可町のSDGs事業等に関する包括連携協定を締結。写真左から吉田一四町長、Knots代表理事の富永佳与子さん

共生関連事業」と大きく3つの柱を立てて展開しています（表2）。目指すところは、人も含めたすべての動物が大きな喜びを感じながら幸せに暮らせる社会の実現です。そのために、市民、企業、団体、行政、学校、研究機関などと連携を図って結びながら、社会をより良い方向に変える事業に取り組んでいます。

Knotsは、拠点は神戸に置きつつも、事業の範囲は限定することなく、全国を視野に入れていくといいます。

「阪神・淡路大震災の動物救援事業とその後調査を受け、行政の成人・成猫譲渡、動物愛護センターの設置、動物愛護管理法の改正と、現在の私たちの幸せな動物との共生の礎が築かれていきます。その後も多くの方が、そのために尽力さ

れてきたことを、さまざまな方々をつなぐことができたKnotsの歩み（表1）からも想像することができると思います。もちろん、Knots自身もさまざまな学びを重ね、今日があるということですね」

Knotsは、神戸とともにその始まりを大切に、「SDGs推進事業—One World, One Life—」として、一人ひとりに寄り添う社会の概念を示す公益事業を具現化するなど、阪神・淡路大震災の経験を人と動物の幸せな未来につなげていくように見えます。

最後に、富永さんに愛玩動物飼養管理士としての活動のあり方についてアドバイスをいただきました。

「私はもともと、ハスキー犬4頭を飼っており、飼育の困難に直面し、それを解決するために愛玩動物飼養管理士の勉強を始めた一飼い主でした。皆さんも資格を取るきっかけや何らかの想いがあったのではないのでしょうか。学んだ知識を活かして、暮らしのなかで何かできることはないかを考えてみると、幅広い可能性があることに気づくかもしれません。ペットは人と社会をつなぐ存在でもあり、愛玩動物飼養管理士はそのつなぎ役になれます。自分一人ではできないことも仲間を増やせばできることがあります。どれだけ人を幸せにできるのかという視点をもてば、もっといろいろなことができるし、それが活動や事業につながっていくのではないのでしょうか」